

## 8

## 行い契約

### 1. 神は人を創造し、人とどんな関係を持ちましたか。

神は、どんな被造物より、人に、ご自身の知恵と力と義と慈悲をお与えになりました（箴8:31、詩8:3-5）。そして神は、最初の人であったアダムと契約を結ばれました。神は、アダムが無罪状態の時、彼とその子孫を含めた契約を結ばれました。つまり、神さまがアダムの神となり、アダムはその民となるということです。アダムは神の民として、神の律法を守るべきであり、特に、善悪を知る木の实については食べてはならないという命令を受けました。その命令を犯した場合、彼は必ず死ぬという刑罰規定も契約の中にありました。しかし彼が神の戒めを守り、従順するなら、彼は、エデンの園で命の木の実を食べながら永遠に生きることができました。従って、本来、神と人間との間の契約は行い契約でした。

### 2. 神さまが人と、契約関係を結ばれた、理由と目的は何ですか。

聖書の初めから最後まで神は、人々を扱う時、契約という関係を結びます。契約の主導権は神にあります。神さまが、人々に来られて契約を結ばれるから、人間は、受動的な位置にいます。神さまが、その民を契約によって扱われるのは、墮落以前や、墮落以降も、いつでも神が絶対主権者であることを現そうとのことです。神は陶器師として被造物に義務を付加させ、ご自身の主権を現します。神はこのように、契約の関係として人々を扱われる理由は、被造物たちが、神の善と、ご慈悲がどれほど大きいのかを知らせようとしてです。

神は人々を祝福するために契約関係を結びました（エレミヤ 32:40）。しかし、人々と契約を結ばれる時、契約の対象である人は、神への義務項目を受けます。それは、神が何か不足していて、人々の従順を要求なさるのではありません。神ご自身が彼らの神であることと、契約の対象である人々は、神の民であることを証しさせるためにです（エレミヤ 31:33）。従って聖書が語る、契約の概念は、それが旧約であろうと、また新約であろうと（行い契約であろうと、また恵み契約であろうと）神が彼らの神となり、彼らは神の民になるということです（ヘブル 8:10）。

### 3. 神さまが、アダムと契約を結びながら、要求なさったのは何ですか。

神は、人を創造なさる時、ご自身の形に従って造られました。そして、ご自身に似せて造る時、人の心にご自身の律法を書き記しました。神は、人に聖と義と自由意志と力を与えたので、人は、神の律法を十分行うことができました。そして神は、アダムと契約を結びながら、彼とその妻が神の律法に従順して、自分たちが神の民であることと、彼らの主人が神であることを現すことを願いました。さらにアダムとエバが無罪状態の時、神さまは安息日を制定なさったので、彼らは安息日を聖く守ることで、外的にも、神に対する義務を十分知る

ことができました。それを私たちは、行い契約と呼びます。

#### 4. 神さまがアダムと結んだ、行い契約において

##### 律法と共に要求なされたのは、何ですか。

行い契約とは、主なる神がアダムをエデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守るようにさせ、アダムに命じます「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」(創2:15-17)。それは神さまが、契約の主として、人に、律法を守りなさいという命令と共に、善悪を知るようにさせる木の実を食べてはならないという規定を与えたのです。それで従順する場合には、永遠の命が約束され、律法と命令を犯した場合は、神の呪いと肉体の死と、そして、靈魂の永遠の死を受けることを警告なさいました。善悪を知るようにさせる木の実を食べてはならないという命令は、アダムが、律法を外的に守るのか、守らないのか、その良し悪しを確認させる命令でした。従って、この命令は、律法と共に付加された規定です。

#### 5. アダムとエバに、神の律法が書き記された証拠は、何ですか。

アダムとエバが墮落した時、その心に書き記された律法が、彼らの良心を責めました。それで彼らは罪責を感じ、神の御声を聞いた時、自分たちを隠しました(創3:8)。アダムが墮落した以降にも、人類に、律法が自然法として残っているから、律法を分からないと言っても、誰でも、自然の光によって、良心の

罪責を感じるようになります (ロマ 2:14-15)。モーセを通して律法が与えられる以前にも、アビメレクの場合にも、すでに姦淫罪を知っていました (創 20:3-7)。

## 6. 神さまが、アダムと契約を結びながら

### 律法と命令を守るようになさった、理由と目的は何ですか。

アダムとエバは、無罪状態において、神さまとのすべき義務がありました。神さまがそのようになさった理由は、神が命令できる主権者であること、また約束し、それを移行させ、祝福なさる、彼らの神であることを証しするためです。神さまが、アダムの心に律法を書き記し、善悪を知るようにさせる木の実を食べてはならないと命令なさりながら、アダムがそれを守ることで、神の義と完全さを現すことを願ったのです。

## 7. 神は、アダムと契約を結びながら

### この契約に対する、外的票号を与えましたか。

神は、エデンの園に、二つの木を置かれました。アダムは、毎日その木々を見ながら、自分は神と契約を結んだ状態であることを記憶し、神の民として、神に対する義務を果たすのに挑戦を受けていました。これを、契約の外的票号と呼びます。

命の木は従順するアダムに、神さまが幸せ、命、栄光を与えることとして確信させ、それは、彼に慰めを与えました。彼は、神の戒めに従順する限り、永遠に樂園で生きることを確信し、それは、彼に、言いようもない幸せを与えました。もう一つの木は、善と悪について知識を与える木の実でした。それは彼

が、神の戒めを守るのかに対する試しでもあって、警告でもありました。不従順した場合には、死と、罪の定めに至るということを記憶させるものでした。

## 8. 行い契約の基で、アダムとエバの状態はどうでしたか。

神は、アダムと行い契約によって関係を結びましたが、アダムに、契約の神として来られたのは、全的に、神の恵みの行為です。またアダムに、契約の項目を守れる力も与えたので、行い契約そのものが神の恵みです。神は被造物であるアダムに、このような恵みを与える義務はなかったからです。従ってアダムは、無罪状態から、神の善と恵みを味わいながら神を賛美しました。彼はなぜ、律法を守らなければならないのか。善悪を知るようにする木の実を食べてはならないと命令なされたのか、理解することができなかった言いながら、神さまに不平を言える理由がなかったのです。ただ、アダムとエバは、神を礼拝しながら、創造主・神を賛美しました。さらに自由意志を与え、強制的な従順ではなく、自発的に自由の中で、完全な従順を行わせた神に感謝しました。従ってアダムとエバは、体と霊魂が、極めて幸せで、栄光ある状態でいました。

## 9. アダムの墮落以前、エデンの園にて

### 彼の内的状態と外的状態はどうでしたか。

アダムが墮落する以前、彼は、内的に驚く知識を持っている状態でした。彼は、神が造られたすべての被造物を使用することができました。神の聖なる形も持っていました。それは、罪のない状態の純粋なものでした。そして彼は、神の顕現を味わっていました（マタイ 5:8、詩 17:15）。アダムは恐れることなく、

神と一番完璧に交わりし、彼は、神を喜びながら礼拝を捧げ、絶対的な満足を味わっていました（創2:25）。アダムの墮落以前のエデンの園での、彼の外的状態は美しく完全でありながら、栄光ある体を持っていました。彼の体には弱さもなく、苦しみもありませんでした。まして、体に何も掛けていなくても、恥ずかしくなかったのです。彼はすべての被造物を支配し、すべての被造物は彼に屈服しました。彼の体は外的に、厳しい状態に置かれるとか、困難を経験する所から、完全に自由の状態でした。

## 10. アダムの子孫と、行い契約との関係は、何ですか。

神さまは、アダムと契約を結んだ時、アダムを、人類のかしら（代表者）として結ばれたから、彼のすべての子孫は、この契約の中に含まれます。従ってアダムが罪を犯せば、彼のすべての子孫は罪の中で生まれ、彼が死ねば、また、彼のすべての子孫も死にます（ロマ5:12）。使徒パウロは、一人の違反によってすべての人が罪の定めに至ったと語っています（ロマ5:18）。アダムはかしらで、私たちはその子孫です。アダムは根であり、私たちはその根から出た、枝に該当されます。従ってすべての人類は、生まれながら行い契約の基にいます。

人類は、アダム以降から罪の中で生まれ、行いによって、自分を救おうとします。しかし、結局、自分の行為では救われることができないと悟り、神さまが罪人を受け入れてくださるために約束なされた、キリストをつかむ時に救われます。これを恵み契約と呼びます。この世のすべての人は、行い契約の基にいるのか、そうでなければ、恵み契約の基にいるのか、二つの中で一つです。